フィリア・レター

～真の友人からの手紙～

発行所：中部ろうさい病院
〒455-8530
名古屋市港区港明１-10-６
TEL 052-652-5511
FAX 052-653-3533
http://www.chubuh.rofuku.go.jp/

第２回白鳥・市民健康セミナーの活況

副院長　正木　道熹

平成24年３月25日、名古屋国際会議場白鳥ホールに花冷えの霙が降る中300名を超える方々が参集しました。13時半、定刻に「がん医療の最前線」というテーマで、吉田純院長のあいさつとともに開演しました。トップバッターとして、村瀬賢一副院長が座長のもと、「乳がんって何」の演題で坂口憲史第二外科部長の講演が始まりました。まず、がん治療では患者に無痛的治療が得られるため、緩和治療との有機的な連携の必要性を話され、がん治療と緩和治療を同時に行い、進行がんにかかっても、苦痛が軽く長生きできるという考えでがん治療を行っていると強調されました。安心できる治療を行うことでがんという病の恐怖を取り除いて治療を行っています。

乳がんは、肺がんに次ぎ登り竜的に増加している、注目すべきがんです。

乳がんの発生メカニズムは、女性ホルモンにより卵巣、腎臓で生産されるエストロゲンが長期間に渡って刺激を受けることで発症しやすくなります。出産経験がなく、授乳経験がなく、初潮がはやく、閉経が遅い方々に発症し易く要注意です。自己チェックの仕方も話されました。

肺がんの治療では内科的治療を松尾正樹呼吸器内科部長、外科的治療を菅谷将一呼吸器外科部長が講演し、座長を河村孝彦副院長がつとめました。肺がんを小細胞がんとそれ以外のがんにわけてみることで、治療法に違いが出ます。小細胞がんの治療は呼吸器内科医の使命であり、進展が早く、再発しやすいのが特徴です。抗がん剤、分子標的薬、腫瘍血管増殖抑制薬使用と放射線治療の組み合わせで治療を行います。また非小細胞がんでは、扁平上皮がんへのEGFR上皮成長因子受容体変異の有無による治療や、外科手術における限局した肺がん、周囲リンパ節転移、肺門部、縦隔リンパ、遠隔部位のリンパ節転移の程度により適切な手術が、呼吸器内科と呼吸器外科のよき連携により行われることが大切です。

「脳腫瘍の３分の２は治る病気」の演題で榊原敏正神経内科部長が座長となり服部和良脳神経外科部長の講演で、よくなる脳腫瘍は外から脳実質を圧迫する腫瘍で髄膜腫、下垂体腫瘍、聴神経腫瘍があります。脳実質から発生する、内なる脳腫瘍である神経膠種は予後不良です。ナビゲーション（CT,術中MRI）と内視鏡機器の使用、手術顕微鏡の使用で脳外科の手術が革新的に発展をしています。手術による合併症が極めて軽減し、患者の社会復帰に役立っています。

消化器がんの外科的治療の特別講演を座長小林建仁副院長のもと梛野正人名古屋大学腫瘍外科教授が行いました。胃がん、大腸がん手術の技術が革新し、腹膜転移がなければ手術が行えるようになりました。肛門手術も革新的技術でほぼ肛門形成も可能になりました。食道がん手術も侵襲が少なく行えるようになりました。梛野教授は、胆管膵臓膵管手術では世界トップクラスです。手術を必要とする消化器がんは抗がん剤のみの治療では完治は全くないと強調されました。

聴講者は16時半まで、真剣に傾聴され、講演後、幾多の質問がありました。

基本的には早期発見、早期治療、禁煙と定期的健診の必要性を強調し、当院が愛知県がん拠点病院であるので、気軽に来院し精査を受けてほしいとし、終演になりました。

今月号のお知らせ

1 第２回白鳥・市民健康セミナーの活況 ……正木　道熹
2 新任医師のご挨拶
……亀山　隆
……臼井　幸治
……小川　義和
……佐野　塁
3 『相談支援センター』をご活用下さい！
4 患者さんの声 ……坂野麻美さん
5 化学療法室ってがん患者さんだけが使うの？ ……がん化学療法看護認定看護師　後藤　真澄
5 食事のときにむせる、痰が増えるなどの症状があれば …摂食・嚥下障害看護認定看護師　廣瀬　みゆき
6 患者さんへのサービス向上を目指して …… 山口千恵美
6 編集後記
6 当院の理念・当院の基本方針